ＲＳウイルス感染症

◀ＲＳウイルスとは▶ ＲＳウイルスは，乳児の細気管支炎・肺炎の原因としてよく見られるウイルスです。晩秋から早春にかけて流行し、ほとんどのこどもが２歳までに一度はかかります。繰り返してかかりますが、幼児以降は鼻水程度で終わります。一方、高齢者も重症になると言われています。

ＲＳウイルスは、感染している人（家庭では鼻かぜをひいている兄弟の場合が多いようです）の咳やくしゃみで飛散したウイルスを直接吸い込むことやウイルスのついたタオルなどから感染します。症状が現れる数日前から、症状が消えて１～３週間後まで感染する力があると言われています。潜伏期は４～６日です。

◀症状▶ 乳幼児の場合は鼻水から始まり、咳が続き、細気管支炎や肺炎となります。１歳未満、特に６ヵ月未満の乳児の場合は入院が必要となることがあります。中耳炎を合併することもあります。喘鳴を伴う呼吸困難の症状を示しますから喘息と間違われることがあります（ＲＳウイルスで重症になった児は喘息になりやすいとされ、"間違い"と言えないこともあります）。多くは７～15日で回復します。

◀診断▶ 鼻汁を検査することにより、15分程度でＲＳウイルスかどうかが検査できます。

◀治療▶ 診断はできても**ＲＳウイルスに効くお薬はありません**（アメリカでは重症例に吸入でもちいる薬剤があります）。高熱や咳・鼻水・痰などでこまるのであれば、それぞれにあったお薬を使用します。重症例には酸素吸入や人工呼吸器を使用することがあります。

◀こんな時には▶ 水分がとれない、夜に眠れない、呼吸数が１分間に60～80回以上などの時はもう一度受診してください。

◀予防▶ 特に生後６ヵ月以下のあかちゃんがいる場合には、鼻かぜをひいている人は感染源となりますので、近寄らないようにしましょう。また、手をよく洗ったり、おもちゃやおしゃぶりなどあかちゃんがお口に入れるものは清潔にしておいてください。

一般的な予防注射はありません。ＲＳウイルスに対する抗体製剤が、早産児や肺や心臓の悪い児に予防投与が認められています。

文責：竹田こどもクリニック竹田 弘（第１版2007.02.12）